慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	リカルドオの価値論(一)
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.2 (1922. 2) ,p.151(1)- 167(17)
JaLC DOI	10.14991/001.19220201-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

◇勞働組合指針 の問題なり。此兩者に屬せざる階級ありとすれば、其の人にとりては、働者にとりては、實に死活の問題にして、資本家にありでは、其の特權 生活不安の原因たらざるを得ざるべし。 資本中心の世の中、何人も無關心なること能はざるは賃銀問題なり。勞 原 んごするものは、本書に來れ 組織合 貫 論 島 定價 二°並〇 発料 ニニー◆生理學觀なる労働者間 定領ニュニー◆生理學型なり労働者間 愚 ELECTRONICAL SERVICES AND A SERVICE AND A SERVICES 響 11 ◇労働問題の現み将來 我國の今日に處し、明日に備へ 送料:十二 定價二圓五 送料 一二○ 送料 二二〇 町桶橋京京東 南桶休三阪大 八一六三三京東 } 張 五五一七二阪大 } 替

田學會雜 第 -六卷 第

縮 說

IJ 力 N 才 0)

۲ 3 自 以上 0 或 F に降 3

は 定め 0 た Smith 3 É Ħ 價 今 0) 格 Ricardo す 田 0 0 或 騰落 Tz Z T は ず、需 唱 を 內 は 0 あ 15 T 觅 在 2 價 9 要 非 ili 0 13 價 7 n 可 供 4 ゼと 變 值 Z 3 窳 價 な (intrinsic E 0 る 8 凡 格 は 劉 相 論 2 0 缆 砂 0) ず Ĭ. 對 する は、 る 的 value) 30 4 配 12 6 tz Smith 事 方 恐 3 th III. b F け T 外 T て、先 以 想 附 支 4J 前 L Ø 容 竟之に 1 配 價 Ricardo 外別 づ 17 (Principles, 0 少 Mi 値 ۲ 到 經 (extrinsic 45 又 B る 0) 嬣 5 15 る 歸 1 自 着 12 然 Ch. IV.)° Smith E. カチ n ¥ value) もの は 固 價 生産に 3 7 は貨物 9 0) 格 或 此 有 て、之を な 理 8 ځ. は 0 0 所 同じ 不 要す 市 ん。 外 ż 0) 2 見 對 場 支 12 交 则 立 Smith 價 < 的 0 Ricardo 於 3 配 12 换 約 自 格 ど 必 事 Ŋ す 44 價 12 然 12 又 情 B 2 值 於 的 12 其 0 ど Z 3

ጀ 在 1899 之 ど づ 僧 一層 す and ָט 一写 3 Ŀ 8 Contributions, 43) 「人若 一五三 Ø 除 12 は E 8 附 なる 價 方 圳 t)· lt 價 Ŀ 致 格 + る William 72 る 以 新鎖の \$ 餘 K 後、此 剰は 7. 7 0) ブッシ こと ~ 汀 あ 他 駲 Petty し」(The は 其 حج げ 0) 0) 係 0 B * 土 T. ч Ħ 自 13 に、能 N 十 0) 72 地 關 1: 然 說 0 ブゥ る 12 地 的 す 作 Economic 穀物 銀 な る 15 は Ġ Æ. 產 す 0 思 垫 h N 穀 額 る ૪ 想 作 一写を 0 13 į 其 Writings す 15 0 Petty 自 3 b لح b 8 * す 沿 とせ Z は、之 ----0) 同 革 切 间 價 は 自 'n ၀င္ 時 ば を 格 natural price 3 0) 等 知 Sir 間 當 同 費 に要したる 量 3 内に、銀 價 H 勞 智 غ W. Petty, 此 ٤ ž 穀 評 控 0) ----物 定 除 写を 2 な ·H 產 17 edited by 同じ b ブッシェ る 3. 非 秘 る は ず 勞を 額 質 ~ 相 3 Treatise Ç る 7)? iv 是 Ħ. 地 信 H 0) な 12 ず

Petty 3 6 th. n 15 3 常 ريمي し L ح \$3 /\ る事、土地 ል and cheapness C 前記 は Petty たり。 を俟 要 ずる 自 ح あ 自然的價格 産 或 決せら ることを告白す」と記 地 なる 健な は 11 生產者 Ø 0) に昇降す、穀物は、一 價 貨幣 3 b 8 の定むる 格 過ぎ 0 は、他 بح 又は の實現 の、生 し、元 幾許 を撃 質際 ざる べし。(pp. 產 企業家の全出費の價格に 13 Ŀ 12 どころ 地 垫 ١٢ τ 附 妨 ¥ 築か にし 近 けて、政治 治 b 人 50-51)即 1: (p. 44)° る ゝ 上 的 力; て變ら 居 5 7 低廉 political cheapness 住 す 部結 的價格(現實價格)を を説 る 彼 過ぎ て、投下 は現實の貨物変 消 n 穀物 費 と實際 は又自然的 ざる事 由て 褙 たる Z 數 生 補償 12 とに 後、是 を認 90) 産する 依 なる プッシ 決定 せら 廉不 り、國 換比 を以 更に め 72 n ح ٠. ğ. 廉 13 R n て「價 O) b 他 さそ w ざる 多く 0 0 natural 祉 相 故 複 0) 會 可 原

kandl, 自 0 E 好 zur Theorie des Preises, 的 to る 的 所に す は、重量、大小、色澤、瑕疵の有無、及び \$ ع اد (contingent) 原因とあ る 数 る を利とな ď 曲 做ふこと等 的 淵買 のに、實石自身に存する內在的 りて影響 意見 (civil, natural and religious opinions) 働量と 決定の 0) び(四)盛 裝し 13 0) 15 し、從て之を輸入せざる 禁止、(二)印度に於ける商人が其 内在 た り。 1889 比例す や否や明 の物の價格を増減する せらるい 一的原 て場に臨むもの多き大 ることを述べ iv (The Dialogue of Diamonds, 231) Petty 因として學ぐ 事又或は貨物に代 ならずと雖も貨物の 解工 た り。 はまた 場合、三)戰亂 の 近. 所 (intrinsec) 原 ると Ľ 偶 13 13 别 Ł 貴 ころは、直 資金 に 依 あ 用 The Economic 族 的 T り、そ る 物 實際交換 を金 0 0 因 あ 囚 破 結 0) 3 0) 5 婚 裂 生 ح 爲 12 否 活 沈 E 石 12 比率 83 投 Writings pp. 625. 近 恐 論 ど、新奇 的 (extrinsec) 12 F U H 華 勞働 R. 妨 て、そ てそ 美 る の商品 げらる Ø T ては、二 な 量 の廉 合 0) 3 0 買 £ 义

次

働量に Theory of Value 8 S. 3-5) 求 15 ति め 永續 な before A. Smith, 1901-W. Liebknecht, 於 b 8 的 0) 3 價格 す 3 13 べきゅ あ 1 3 j 0) の な 0 3 Ġ 價格の外に、是等 此に Petty が なし、その ん。 を來 (vgl. たさ 決定原 Zuckerkandl, S. 231-2-H. L Geschichte to ----3 時 因 r 的 der Werttheorie 生產 個 な 然的 17 E T 動揺に 要する相對的勞 以 郹 て、彼 ぐる R. Sewall, The ≅' 左右せら n ጀ England, の意 ころ は は

その称 逼的 外附 intrinsic value Cantillon の内在 4 **値**及 の市 價 值 E 0 びその地方的法定價値と 語 叉は 1623 pub. 場價 bonitas extrinseca は、素と教會 價值 格 natural (valeur intrinsèque) O 0 外に in 1655 intrinsic 法學者及び 必然 ご称し *Q*) 的標 著者 value な 泚 民法 の意義に此二語を るを 説に Rice Vaughan は、物 的 學 艦承せる b Ø 欲 朋 あ 望 か b を構 に現は て、之を支配 も、凡そ貨 b 72 0) る。 す 用ゐたりしが、漸 17. 力、又 幣 量目 **ト、A Discourse** さよ す は 0) بح 固 素 & bonitas intrinseca 0 材に 有 思 0 8 想 基づ は ဝင္ Ø 在 Rchard して 意義 Coin

1718 Locke 12 ~"是等の歸納と例證さに そ E 0 刑 る 0) 否 B 1892 0 更 は 5 Essai sur la Nature du Commerce Cantillon 22 n 中に於て、物の 動 の内 て、そ りと謂 を構 0 Ø) す。 な 中 Ø) 0 土地 心又はその究 至って りと記せるなり。 ひ文 する 4 又 由り、一物の 0) 生産に投せらる 12 理を種 內在價值 n 價 3 自體最 は世 し、貨物 の變更に 值 An Essay on Money, Bullion and Foreign extrinsic value 竟の は、そ 4 0) 內在 支配 0) なる語は 最も 0) (Zuckerkandl S. 13-15, Sewall, p. Ł の en Général 1755-Reprinted for 有用愉快 はあらずして、其貨物 阪賣(市場)價格 人生の必要を滿 證を 潜の 普通の 士: 格 地生産 意義に 以 叉は内在 相 Smith て説 b Ø 剉 性 のなりと跳ども最大の 世 に於 物 用ゐらる〉に至れ 質を具備 L marketable value め の量並びに勞働 12 ける たる後之を 53 し、又は le prix et valeur intrinsè 0 する 他物 自然價格 > Harvard 便 12 Exchange, 51. Liebknecht, B 73 盆 Ŧ. 概 0 12 變動 n b の如 する 括 は University, 貢 内 最 献 London て EI 政 在 大 す S る t

Cantillon 12 b 0 な む 南 格 12 0) K 族 内 る b 义 i n は が、其 17 土 在 原 0) ず は 7 あ 地 價 因 .見 In 0) 内 3 5 ٤ 庭 人 値 3 は L τ \$ 勞 0) * τ _. Ď 有 1-通 ~ 是 3 ح 渠 账 \$ 3 3 E 12 氣 8 3 0 1-賣 比 通 す 地 义 却 例 K U 1 0) 3 Z す す 臺 C 0 0 12 或 CK 1 r 2 物 名 Œ 於 は L 0) は 0 ける 常 以上 働 は È 當 بح 行 F 屢 な 0) 物 h ል 12 17 或 3 T 量 حح τ 8 め ~ 市 質 狀 は Ť 於 0) 12 は 其 4 0) IJ H す 或 E 質 消 1= 世 價 下 3 3 は 際 額 費 B 72 其 0 0 12 T 3 E 0 價 費 曲 於 用 格 7 て、内 價 T る P K E 然 値 原 は、二 £ ~ 必 投 る 12 因 E 72 從 B 13 内 3 B 72 0) 9 常 b な 7 致 0 ず」と 12 ٤ 闅 乃 Ŀ 4 Ø 及 此 3 ¥ * C 5 F ん な X 比 12 Ø ば 例 3. 且 17 لح b る IIL 生 例 共 ^ 3 < 迎 す 3 × 0 產 額 3 12 17 内 ば 2 Pif 脫 る b 物 Ŀ 從 任 7 1: 44

ج る 3 充分 E す ح な EI IIII E 內 は 生 3 す C 動 है 5 及 す 在 الردار (pp. 33-39) درار 不 は一金 不 産 CK 價 は、買 ~; 進 變 斷 6 食 值 0 日 屬 均 手 又 S. 0 過 主 T 鰶 は 0 0) は 北 眞 13 落 池 試 1: 0 産. 質 3 2 手 حح は 土 8 内 3 食 惹 内 te T 3 2 在 起 ۲ 價 25 τ 及 12 0) 0) す 0) 食 價 消 如 か 3 值 金 商 費 3 る Ŀ 及 力 は 屬 幾 12 CK 凡 許 0 0 北 7 b حح 生 7 價 商 手 ति 市 7 反 III III 活 土 0) 值 난 對 價 B 127)° 地 物 12 1: 0 B は し 3 動 於 素 0 亦 2, t る は b 材、勞 4 3 间 る 民 宜 け 以 3 Cantillon 許 *j*); n 3 可 7 ----0 ٤ 消 > か 0 5 4 3 بح 1 市 麥 勞 同 理 費 如 Ġ は 0 0 Ŀ な. そ 3 働 は U 不 Įζ M 0) 0 17 價 3 0 E 此 在 必 < 曲 可 12 要 形 智 錼 處 2 .7 價 格 V 3 能 0 乃 以 定 價 17 支 は 最 は n 3 値 祉 5 τ 15 な ٢, 步 配 市 以 生 會 勞 b 3 產 ¥ B 13 n か 遊 於 價 B ----は Mi r 別 必 3 2, Τ. 小 決 1 D) 7 定 う 於 消 上 E な る H は T 3 1

べ ば 共 Money and 土 走 生 生 1113 入 ح 3 12 活 量と 産物 關係 3 を 3 な 地 を 故 と、又從 る 12 維持すること能はず、又勢 と勞働とは Coins. 8 Ø 12 あ 當 價 由 る な 家 値 即ち χ ح Part I, て William Pettyとも通ず 0 の勞働 wealth or 族ごを ۲, 測定 ど、及 後是 價 £ 叉 机 1757 地 L 更 CX 等 8 r 合 養ふ 其物 にそ riches L 0) 3 致 7 ч. 12 1 0 0 は、或 切切 足る 12 生 內 ح 到 ોહ 働 は 0 **:**E ţ 35. N 土 る T 富 业 圣 る p3 て、人は 値はそ (p て、此 る迄養ふ 地 0 とこ 量 ٤ 同 さころ 42)、次 0) h 源 を 0) 處 -適 K 泉た 3 视 價 1: の 日 宜 甚 *** 值 0 勞働 L むと記 生 傭勞 で谷 性 る。事 4 だ貧寒不快適なる に鈴 て、最 産に か、又は は 働者 13 せ を説 **b** F William Harris せり 充當 る 各 と論結 級勞働者 者 0 き「土地 土 Harris & (p. 53)° に歸 勞 મુ Ut 0 0 と勞働 する 少 3 0) 勞 0) の勞働 B 價值 p; 充 力に 生活 亦 Cantillon B 3 Kh 土 An Essay upon 用 は ጀ ち 0) > は 地 0) 世 俟た Ø のみあ な ح ت 彼 (D) 量 土 必 ₹ 奴 生 b 價 n E 地 要及 3 ず 等 産 3 11 生 生 可 自 hi 3 0 物 K は 土 產 產 0 CX カシ

the Originals of Vaughan, Cotton, 尺 τ 及び勞 働 值 評 は 覢 3 以 8 Political Economy Club, 1856, 人 12 12 12 價 評 と異なり、物 外 措 ~ 貨 f. 13 C 働に求 物 らるっと。 成る」と V 生 3 4 物 5 間の **b** 麓 於 O) (1 11) 7. n 0 内 E く、二般 交換 の欲 め 年 す。 謂 要 な **1**F. Rp りと b す 5 し んとした 價 mi ^ れ、大多 調へ 3 比 **b** τ 望充足 率 あ 7 噬 12 6 A 3 3 地 2. を支配 b Petty, Lowndes, 之を 12 ことを認め、之れ pp· 347-8) 浥 Select Collection 0) 一切 而して内在 カルド 者 L 物 す 內 物 3 τ 意義 岩 知 É l 3 0) τ Newton, な べ 價 は 12 of Scarce るこ 要 彼 山. 必 用 價 は 値なる が 主 を 一切 て決 (ibid, S 要 n 定原 بح 之 な も亦市 Prior, に由て and Valuable Tracts on Money, Ċ 貨 定 は「物又は貨 3 ح 12 物は、土 350)° せら して 土地 韶 因 す が最早 Harris and 場に を該貨 3 決定 評 3 勞 12 地と 定世 ど云 斯 於 於 は、左 物 物 < P 及 H Locke ふも、就 相 勞働と Others. 5 5 12 Harris CF 3 0 3 現實 3 費や Ħ. n 13 丽 9 0 > 中 0) 交 なる Printed for Ø は は 胩 換 交 Ŀ τ に於 換 記 É は 內 7 な 在 0

Ù か 在 比 る 價 例 自 主 17 to ح 值 상 己 要 Z 值 ~" は B 3 所 標 T T 見 0 3 7 る L 定 次 0 12 ح そ 0 は は 0 Ħ. 12 す 7 原 M 於て をそ IJ B E 3 次 12 5 在 変 以 h 他 17 E 價 賣 0) る C 人 何 値 換え E る す Ø は 叉 と 帶 支 n 買 階 ---0 定 配 7 2 ば 1: 手 好 致 貨 智 す る 貨 क्त H 0 動 と云 す 賣 ч 來 生 る 17 8 12 0 手 1 せ ģ £ 7 4 岩 2 價 1: す 0 b か T る G 3 市 17 7 影 は す b 急 あ 0 響 3 速 屢 tr 5 1,0 12 比 局 を 若し **کم** ر ۲ 1 於 2 投 th 상 7 有 例 る H 忧 (ibid, 0 す 若 12 價 < る ことは Harris S 3 內 ~ は 個 n 切 ፘ して 3 在 4 緩 E Ġ k 72 價 は 漫 貨物 W 3 n p. 値 榯 力 貴 な 3 勞 ح 12 定 は 若 350) Ļ 3 0) 但 K 自 ----7. 現實 L 0 بح 致 12 其 < 要 则 貨 E せ 對 機 は は \$ 0 物 E 东 n す * 下 2 17 價 Ø 8 7. 3 落 0 格 認 內 9

لح T 12 8 す ع L 0 叉 之 其 T 3 3 ろ は 3 T 0 は 5 勞 元 大 窗 な 齑 1: E 土 b 地 3 T 土 智 地 利 3 は 亦 0 地 7 養 3 72 4Jr 2 3 5 3 8 る 17 12 廉 12 ょ 3 3 す 7 Petty なる 足 જ 勞 3 3 0 同 る 同 7 す ** 土 一卒 じ 及 0 ~ 3 Cantillon 量 地 α 增 3 か ---力 量 らざ 定 は r 諡 Cantillon * 加 3 勞 で 以 彼 す 15 し 等 F T 3 る n 同 0 べ 13 ح 民 J 量 降 0) 價 夫 2 ۲ は b 1 n 난 7 0) ス 生 な そ 對 し は ٤ 0 T RĎ J. す 8 す 賣 0 ţ 相 لح 7 b 浆 Z る b 3 Ħ. ri 13 E \$ \$ 比 ولور 0) 0 17 ----0 は み なり。 例 此 12 地 な 至 競 か Harris なら は、全 し、普 0) 者 る 3 1 爭 價 ~ 4 0 ょ 賃 1 0 生 ず、又 世界 12 格 5 日 通 0 0 於 tu ٧,٠٠٠ 勞 叉 12 **C** 手 12 農 爸 常 T 働 勞 0 113 U 民 颁 51 土 C 湝 12 他 U だ 0 土 勞 0 3 0 を 貧 生 地 7 勞 8 引 £ 寒 物 活 ح 值 -0 者 F 利 る 1 13 了 0 E 0 Ŀ

12 由て影響せらると。 (p. 353)

造 alienation) 是なり」と。 Æ into the b る なる二物あ 最 で、Steuart !! 上記 得 0) 働量、即ち Steuart 部 坳 縋 る 限 分 諸 0 Principles of Political Economy, 額以 是 か、(二)勞働者 E 家の は なり。 は 定むるものと謂 利 產 下即ち眞價以下な りて存す。「貨物の ありて 費は、その真價 (real value) を決定し、市場に 説と多少相 Ŀ 「是等三個條を知れば製作 需要 構 眞價を構成 の語を以て云へば、一人が一日一週一月内 は貨物 战 の生活費及びその生産要具を供給する為 12 す。 比 觸るゝ 191 の 生 ふべし。 而して價格は此眞價以 する要素に 從 眞價 3 産費は ح 1767 T ۲ てろ ど能 事 日 real value及び賣却に < 2 Ø あ はず。 12 の價格 (Bk II あり、 諸節 3 物 應 じ 0) 價 是 τ Ch. 0) 辿 は 動 格 以 歸向 F ぶる IV)貨物 上のも 貨 摇 は 12 決定 す 物 降 於け 4 際 ~ の生産に 心 ること能はすと謂 15 0 せらる。 して らん。 0) 8 12 Steuart _° は め に該 價格 あら 賣 悉 丽 0 Ø 價 利 必 L 貨物の幾許を 役やさる 中に ずし 0) 彼 τ 潤 (profit 製 價格は此等 要費用(三)原 真 n 造家 生產 て其 は、全 An 價 42 從へは、 を超過 Inquiry ጀ 0) uodn 41 < ふを 톪 相

0 步 æ 3 す 即 以 自 th. 3 5 て、物 及 ح 0) 價 ч 3 CX 給 説なり」(Zuckerkandl) シ を Smith 以 III は、僧 の眞價はその價格 t (一六五) を 5 産 C 關し 區別 費に 多少(二)是に ー (simple)と複合 當 m, 格 IJ ろ な 0 は 72 τ に於 して、其上に 由て定め 價 **b** 貨 前の文献 8 論 Smith [91] 物 貨 13 然 τ 8 物 說 n 作 0) 及 6 13 0) 4 0 2 リカルドオの似値論 び 尋ね、共 難も 亚 (compound) かい 最 n な 量 質 3 Ricard τ 低 費に たる b 值 ح たる 命說 限 τ 툶 間 0) (Bk 大 E 右 曲 製 要 價格 D) 决 略 記 造 0 需 T 若 ず。 學 要(二)需 を記 眞 定 四 決定 ح 家及 L 理論 ۲ Ch. 0 す 價 < 强 玆 Ŀ 4b 以 ح 0) 3 は び 17. Š は彼 7 軂 原 要 53 0) 1 酹 欲 0) 本論 は لح J. 說 12 因 望 人 îfī n 大 12 は 21 せ 12 場 9 0 小 5 價 方 進 Ç す n 格 備 b E T 3 12 先 をなさ 决 51 分 界ぐ。 0 る 12 3 ち、叉單 づ 歸 取 定 か 6 そ 其 4 b 3" 间 B 貨 0 量 0 (二)評 萠 ん 1 3 T 3 Ġ 四割 3 物 貨 ح 利 芽と とす 心 る は 純 0 る 0) 幣 銳 B 甚 13 理 > 與 價 r だ 次 價

(Pol. 「····一方の銀は他方の穀物と同價値 equal valueと評定せざる可からず···・故に 價格」と云ひ叉前記、此穀物叉は地代は英國貨幣幾許の價値あるかの間に對し value「然れども 別も あるか。「(Taxes & Contribution) と記し之と相並んで貨物の價格」土地の價格「穀物 價値 value は巴里の夫れの の價格(price)は之と交換せらる の價値 (value) は之と交換せらる worth, priceの 語 此穀物一ブッシェルの價格 price は銀一写なり「世界は物を金及び として後者に由りてす。 Arithm.)「然れども次の 必しも常に嚴守せられ Zuckerkandl (S. 和蘭より英吉利 は嚴密に 11 代)の記 牛ばなるべし「佛蘭西より輸出せられたる 問題は此穀物又は地代は英國貨幣幾許 ざり せらるゝ すが へ輸出せられ 對價物量を指すことを常としたりと雖も、此區 1他財の量に現は しは、例へば Petty が「Amsterdam に於ける 而して若し品位量目同一と認められたる く、Smith以前の英吉利經濟論 事なく随意併用せられたる たるも のは三百磅 るくその購買 の價値worthあ 銀に 力を現はし、そ Įζ の價値 worth 貨物の價値 於ては、value 如 て測 ١ τ

を見 1: は、(Of Raising Our Coin) 云々等の如し。 銀一写と し 諸處に於て同價值 same value ならずしてその商業に比 か 30 於て最も 云々」(Taxes etc.)の旬あるを以て知るべし。 τ 其 又それ 價格 price 昇降し、又一個所に於て他に 即ち「一物の價値 value を正しく評價せんとするもの 同價值 epual value value 以てなり。「其內在價值 intrinsic worth に於て考ふれば、銀 價値 most worth あり」(Consequenc of Lowering of Interest)「] 例に於て考察せざる可からず。 に由て評價せられたる valued 諸物に對する比 or price は單にその或他の物に對する關係的のも なること確實なり・・・・・然れどもそは 於ける 蓋し價格を左右する 同様の混用は よりも價値ありmore worth して最も は、其數量を、その販 Locke に於 例に於 貨 同 幤 時に て相 少な Т. 遠せ 世 是